



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

旦那の趣味

写真はうちの旦那、朝深大介である。舞台俳優で、最近は演出も手がける。うちの劇団の後輩でもあったりする。それだけ聞くと「おしどり夫婦ですね」と言われるが：うちの場合はなんか体育会系の先輩後輩の集団生活みたいだ。彼は私の事を「お母さん」と呼ぶが、劇団員もそう呼ぶし、家にはしよちゅう食い詰めた、または酔いつぶれた若者が転がっている。「お母さん、なんか食うもん作って」と言われることに変わりはない。

大介の趣味は野球観戦である。これは大阪ドームにいる姿だ。

かれは「野球ファン」なのだ。基本は阪神ファンだが、それはチームとして面白いという理由らしい。実際には12球団のどのチームにも注目の選手がいて、どこの試合でも観戦に行く。プロの試合だけではない、甲子園大会にだって行くし、高校生の大阪代表を決めるための大会にだって、時間と場所があつたら行く。

春、夏の高校野球の季節になると、テレビの前で高校野球のチェックをはじめ、毎日コメントしている。そして突然スーパールに出かけたかと思うと、ウインナーや、シュウマイ、唐揚げ、それを入れるパックまで買ってきて「お母さん、これ詰めといて。明日甲子園に行ってくるわ」と言い放つ。

その時期に、彼の言い出す「甲子園に行く」は、これはもう一日中野球を見てきますという意味だ。だいたい4試合見られる日に出かけることが多い。だからお弁当は2食分くらい作る。そして、それをこっそり

抱えて、いそいそと観戦に出かけていく。そして一試合ごとに報告メールがくるのである。「もうええって…」と、私は高校野球の速報を知らせてもらいながらウンザリするのである。

彼が野球に出かけていく姿をみながら、時々「これくらい芝居見に行くことってあるのかな？」と思う。自分の属してる世界なのに、奴は芝居観劇が嫌いで、なかなか行かない。私が知りあいが出てるから行こうと誘っても、「今日、阪神―巨人戦やからテレビ見とくわ」と断られるのだ。

旦那のもうひとつの趣味は、お酒を飲むことだ。楽しく飲むことがモットーで、「芝居の話なんかして飲まへんで」と言いつつ、いつも一番熱く語る。しかも飲んでも酔いつぶれないので、ひたすら喋る。酒に飲まれることはないが、酔っ払いの性として喋りだすとしつこくなるのが特長だろうか。もちろん、それが野球の話なら最高である。いつまでも、

どこまでも、誰とでも話し込むに違いない。

そういう意味では甲子園で野球を見ながら、お弁当を食べてビールを飲む。というのは彼にとつて至福の瞬間に違いない。一度、友達と出かけたことがあるのだが、「お宅の旦那さんは、甲子園をバーと勘違いしてます」というメールが来た。付き合って、さぞ疲れたことだろう。

野球の試合を観に行くと、よくひとりでもくもくと弁当を食べ、ビールを片手にスコアなどをつけている渋いおじさんがいるが、うちの旦那もあなるのだろうか？ 気になるところである。声がでかくてお喋りなので、ああいう枯れ方はできないとは思うが…。

【著者略歴】

わかぎあふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より故中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーII」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。
